

3・24五割動員実現の闘いと結合「60・3」を阻止しよう

動労千葉

85. 3. 8

No. 1883

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

全組合員が燃えて闘った第二波（第二波）の闘争

殺人的労働強化と「過員対策」を強制し、大量の首切りを行わせるための突破口「60・3ダイ改」を許してなるものか。動労千葉千二百組合員は、政府・自民党、国鉄当局の手段を選ばぬ国鉄労働運動解体攻撃のまえに屈服して全く闘えない労働運動の状況を突き破り、唯一実力決起した。この闘いは、一人一人の組合員がすさまじい重圧をはね返して闘いぬくことを通して、八〇年代後半を闘いぬくための巨大な展望を切り拓いた。この成果を確認し、さらに第二波闘争への決起で「60・3」を粉碎しよう。

「81・3」をひきつぐ闘いとして勝利した

津田沼支部 通信員発
われわれは、国鉄「分割・民営化」大合理化につながる「60・3ダイ改」阻止に決起し、20/21日の2日間わたり非協力・安全確認行動を闘いぬいた。

この闘いは、「81・3闘争」をひきつぐものとして、日帝・中曽根、再建監理委員会、当局、動労「本部」革マルの闘争圧殺策動を粉碎し、勝利したことを確認できる。

支部執行委員会は指令に基づき、支部役員は3日間の籠城体制をきめ、

全組合員オルグを実施しのぞんだ。2日間の非協力・安全確認行動を通して、闘争経験のない運転士が高度な戦術の中でがんばったのが注目された。オルグの中でも、この戦術で「効果があるのか」という状況の中で、2日間を全組合員が燃えて決起し、総武線をゆるがす闘いを意気軒昂と闘いぬいた。

21日には、職場集会をも同時にかちとつた。また2日間の闘いの過程で、闘う労働者が激励に訪れたり、激電が多数寄せられた。

ゆきよる共感 一万人の労働者による

二月二六日、第一波実力闘争をうちぬいた動労千葉青年部は、反行革総評一万人集会（東京都体育館）に登場し、ピラまき闘争をや



「動労千葉実力決起一才一波順去貫徹」のピラにいく入る参加者。

りぬいた。

二〇〇二一日の四八時間順法を貫徹した動労千葉は、全員ゼッケン、ハチマキで「60・3」粉碎ノ3・24三里塚へ！と力づよく訴え一万の労働者と熱い交流をかちとつた。

とりわけ、全国から結集した国労五千の労働者は、「順法やったね」「ともにがんばろう」と声援をかわしあい、共感の渦をうみだしていった。

用意した二〇〇枚のピラが、あつというまになくなったことのない、第一波闘争の圧倒的勝利を実感して、この日の行動を終了。

なお、集会では、アリバイ的に登場した動労「本部」委員長佐藤某が「裏切り者かえれ！」のヤジと怒りにつつまれて、早々と退散した。

満足感を味わった第一波闘争

館山支部 通信員発

館山支部は、2月14日から個別オルグに入り、2月19日、組合員約50名出席のもと、職場集会を開催した。笹生支部長より「60・3」についての交渉経過と、20/21日の非協力・安全確認行動の取り組み方の説明があつた。また、要員削減、ロングランダイヤ、安全無視のデータラメな当局提案に組合員の怒りが集中した。第一波闘争勝利にむけ、青年部を中心に館山駅前において「60・3」阻止、「分割・民営化」反対のピラをまき、安全確認行動への理解と協力を訴え、第一波闘争に突入した。

この闘いは、初めて闘争を経験する若い組合員、また何度も苦境をのりこえてきたベテランの組合員も、精一杯やりぬいたという満足感を味わった。

厳しい情勢の中で、全組合員が非協力・安全確認行動を消化することによって当局を追いつめ、「60・3」強行を阻止した。

館山支部は、この成果を確認するとともに、組織力、団結力をもってさらに闘っていくつもりである。



生産点では国労共闘が前進。(第二波) (闘争・津田沼)

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！